

ソーシャルワーク演習

[演習] 第3学年 通年 選択 2単位

- 《履修上の留意事項》
1. ソーシャルワーク実習・実習指導を履修する学生は、必ず履修すること。
 2. ソーシャルワーク実習履修生は、本科目の単位修得済みの場合でも、当該年度に本科目を受講(聴講)する必要がある。
 3. グループワークを中心とした演習という性格上、他の学生の学習の妨げとなるため遅刻は欠席扱いとする。
 4. ソーシャルワーク実習に向けた重要前提科目であるため、前期に7割以上の出席していない場合は、実習中止となる。

《担当者名》 巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp 大友 芳恵 宮本 雅央 奥田 かおり 近藤 尚也 片山 寛信

【概要】

ソーシャルワーク実践を形成する要素としてのソーシャルワークの価値、人間と環境、社会の把握と理解、ソーシャルワーク実践アプローチ、実践技法に関する知識とスキルを演習を通して学ぶ科目である。

展開方法としては、ソーシャルワーク実習・実習指導と連動した内容について、実習分野等を考慮したクラス別の演習展開を基本とし、分野横断的な連携と協働を実践する合同授業等を通して、人権感覚を踏まえた実践を行う力の獲得を目指す。

【学修目標】

1. 相談援助場面において面接技法を活用した面接を展開することができる。
2. 相談援助場面において得られる情報からアセスメントを行うことができる。
3. 必要な社会資源を調整する方法の概説ができる。
4. 相談援助に必要な社会資源を活用・開発する方法の概説ができる。
5. 他職種との連携やネットワーキングの方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ソーシャルワークが向ける関心と授業の展開方法(全体)	・ソーシャルワーク演習の展開方法が説明できる。 ・事例に対しソーシャルワークが向ける関心を説明できる。 ・担当教員の紹介 ・F・P・バーステック『ケースワークの原則(新訳改訂版)』を基にした「相談援助における援助関係」レポートの説明。	巻、近藤、宮本
2	オリエンテーション(クラス別)	・ソーシャルワーク演習の授業内容・展開方法が説明できる。 ・インシデント情報をもとにクライアント像を描くことができる。	巻、大友、宮本、奥田、近藤
3	援助関係の形成と面接技法	・面接技法を活用し模擬面接を展開することができる。 ・模擬面接で活用された面接技術について説明できる。 ・援助関係形成のポイントを説明できる。	巻、大友、宮本、奥田、近藤
4	社会福祉士倫理綱領と倫理的ディレンマ	・社会福祉士倫理綱領の理解。 ・倫理的ディレンマに関する事例を基に事例検討することができる	大友、近藤、宮本
5	援助関係の形成と面接技法	・面接技法を活用し模擬面接を展開することができる。 ・模擬面接で活用された面接技術について説明できる。 ・援助関係形成のポイントを説明できる。	大友、巻、宮本、奥田、近藤
6	ICTを活用した面接の実践	・ICTを活用した面接を展開することができる。 ・模擬面接で活用された面接技術について説明できる。 ・援助関係形成のポイントを説明できる。	大友、巻、宮本、奥田、近藤

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	アセスメント ～主観的ニーズと情報の整理統合～	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の主観的ニーズを説明できる。 ・事例をもとに、ソーシャルワークの立場から関心を寄せるポイントを例示できる。 ・ソーシャルワークの立場から利用者の置かれている状況に関する情報の整理・統合ができる。 	大友、巻、宮本、奥田、近藤
8	アセスメント ～問題分析・ストレングス・客観的ニーズ判断～	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの立場から利用者の置かれている状況に関する情報の整理・統合ができる。 ・人間と環境の間で起きている問題について説明ができる。 ・利用者のアセスメントにより客観的ニーズ判断ができる。 	大友、巻、宮本、奥田、近藤
9	アセスメント ～当面の援助目標と必要情報へのアクセス～	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と環境の間で起きている問題について説明ができる。 ・利用者のアセスメントにより客観的ニーズ判断ができる。 ・当面の援助目標と必要情報へのアクセス方法を設定できる。 	大友、巻、宮本、奥田、近藤
10	対話とリフレクティング (全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・対話とリフレクティングについて概説できる。 ・外的会話と内的会話を意識することができる。 ・リフレクティングプロセスに取り組むことができる。 	奥田、大友、巻、宮本、近藤
11	アセスメント報告の実践 (模擬カンファレンス)	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬カンファレンス場面で、参加者に対して、自ら行ったアセスメントを報告することができる。 ・参加者からの質問に回答することができる。 ・指定事例に対するアセスメント内容を示すことができる。(アセスメントワークシート提出) 	奥田、大友、巻、宮本、近藤
12	アセスメント報告の実践 (模擬カンファレンス)	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬カンファレンス場面で、参加者に対して、自ら行ったアセスメントを報告することができる。 ・参加者からの質問に回答することができる。 ・指定事例に対するアセスメント内容を示すことができる。(アセスメントワークシート提出) 	奥田、大友、巻、宮本、近藤
13	ICTを活用した面接の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した面接を展開することができる。 ・模擬面接で活用された面接技術について説明できる。 ・援助関係形成のポイントを説明できる。 	片山、巻、大友、宮本、近藤、奥田
14	社会問題を基盤とした相談援助演習 (社会的排除)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助事例を通して、事例にみられる複合的要因をアセスメントできる。 ・複合的困難課題への支援方法について概説できる。 	大友、巻、宮本、近藤、片山
15	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズを説明できる。 ・ニーズに即した支援の検討ポイントを説明できる。 	大友、巻、宮本、近藤、片山
16	相談援助における面接と記録技法	<ul style="list-style-type: none"> ・面接を進めることができる。 ・アセスメントができる。 ・実習日誌が記載できる。 (社会福祉士OSCE不合格者への演習担当教員からの再指導)	大友、巻、宮本、近藤、片山
17	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズを説明できる。 ・ニーズに即した支援の検討ポイントを説明できる。 	大友、巻、宮本、近藤、片山
18	対話とプロセスレコード	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCE時に作成したプロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の傾向と活用方法を説明できる。 ・プロセスレコード活用の目的と記載方法が説明できる。 	奥田、大友、巻、宮本、近藤、片山
19	地域のニーズに対応した資源開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の困りごとをキャッチすることができる。 ・地域の状況(地域の基本情報、住民の状況等)を確認することができる。 ・コミュニティオーガナイズングにおけるチームの構築手法を説明できる。 	大友、巻、宮本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・地域課題について住民懇談会などで関係者の価値の共有を図る。	
20	地域のニーズに対応した資源開発	・メンバーの平等性を確保し、メンバー間の相互作用を促進することができる。 ファシリテーション、コーディネーション。 ・地域懇談会等での約束事を決めることができる。 ・会議以外でのツール活用(メール、勉強会etc)を検討できる。 ・地域の諸資源と各種行政計画の関係を説明することができる。	大友、巻、宮本、近藤、片山
21	地域のニーズに対応した資源開発	・地域の諸資源、関係者の持つストレングスを列挙することができる。 ・新たな協働先について検討することができる。 ・サービスの評価について説明することができる。	大友、巻、宮本、近藤、片山
22	実践を記録する	・ソーシャルワーク実践現場における記録技法を実践することができる。	大友、巻、宮本、近藤、片山
23 }	スーパービジョン (ディレンマレポート)	・スーパービジョン課題を提示することができる。 ・実習で体験したディレンマの内容と構造を説明することができる。	大友、巻、宮本、近藤、片山
24		・ソーシャルワークの立場から見た倫理的ディレンマの構造について倫理綱領等をもとに検討することができる。	
25	対話とプロセスレコード	・実習体験プロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の傾向と活用方法を説明できる。 ・実習体験時のプロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の思考を説明することができる。 ・自己の思考傾向を踏まえて、自己活用できる。	奥田、片山、宮本
26	聴くことの力	・クライアントの抱える心理・社会的背景を考慮した聴くこと意義が説明できる。 ・「聴く」際に生じるソーシャルワーカーの内的会話と外的会話の実際が説明することができる。 ・自己の実習体験などをもとに、「聴くこと」の意義と必要となる実践力についての考えを述べることができる。	下倉賢士(特別講師)、巻、宮本
27	プレゼンテーション	・実習体験をもとにしたグループでの模擬的プレゼンテーションができる。(「場と対象」はSW実習報告会を想定)。 ・模擬的プレゼンテーションの実践を省察し課題点について検討することができる。	片山、近藤、宮本
28	ミクロからメゾ・マクロへのソーシャルワーク実践	・実習体験を通じたミクロレベルの実践課題を例示できる。 ・ミクロレベルの課題の解決・解消に向けたメゾ・マクロレベルでの実践について検討できる。 ・ひとつの実践課題に対する地域における分野横断的な連携と協働案を検討し、他のクラスに説明する準備ができる。	大友、巻、宮本、近藤、片山
29	地域における分野横断的な連携と協働	・各クラスから提示された実践課題を共有する。 ・地域が抱える問題とストレングを指摘することができる。 ・地域住民、関係者、関係機関が、連携・協働した活動を検討することができる。 ・ソーシャルアクションを含む実践方法について記述することができる。	片山、宮本、近藤、大友、巻
30	聴くこと・話すこと・つながること	・地域の諸資源とのネットワーキングの可能性も踏まえ、ディレンマ体験、プロセスレコードでの経験を省察することができる。 ・クライアント・地域が抱える問題解決に向けたプラ	大友、巻、宮本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ンニングができる。 ・地域の状況を踏まえ、クライアントと聴く・話すことができる。	
31	人権感覚と実践能力 (演習まとめ)	・人権感覚を有するソーシャルワーカーの役割と実践能力について説明できる。 ・3年間のソーシャルワーク演習を通じて習得した成果が説明できる。 ・ソーシャルワーク演習3年間のまとめ。	大友、巻、宮本、近藤、片山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート70% 授業への主体的参加度(模擬カンファレンス含む)30%。

実習日程の都合上、レポートの提出が困難な場合は、事前相談し、別途提出日の指示を受けること。

【教科書】

八木亜紀子『相談援助職の「伝わる記録」』中央法規。

フェリックス・P. バイステック,尾崎 新・原田 和幸・福田 俊子(訳)『ケースワークの原則(新訳改訂版)』誠信書房。

【備考】

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「相談援助演習」、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「精神保健福祉援助演習(基礎)」に該当する。

教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)」に該当する。

【学修の準備】

1. 演習で取り上げる事例を読み、社会的背景や要因について、グループ発表できるよう調べ準備しておくこと。
2. 専門用語の意味を理解しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2、3

【実務経験】

巻 康弘(社会福祉士)、大友 芳恵(社会福祉士)、宮本 雅央(社会福祉士・精神保健福祉士)、奥田 かおり(ソーシャルワーカー)、近藤 尚也(社会福祉士)、片山 寛信(社会福祉士)。

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、社会福祉施設・機関でのソーシャルワーカー(社会福祉士)としての実践経験を通じて得た、価値・知識・技術を活用し、実践的教育を行う。